

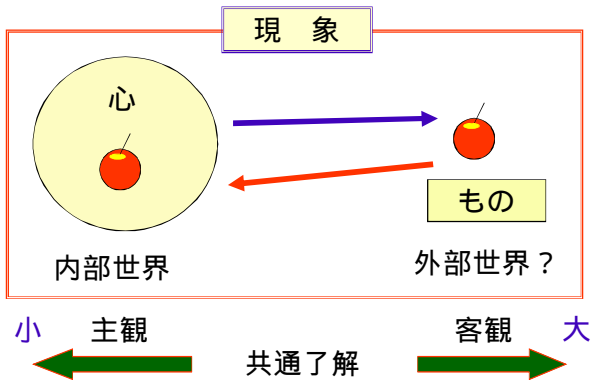
# 構造構成主義的看護研究法の理論整備

高木 廣文  
 東邦大学医学部看護学科  
 国際保健看護学研究室  
 2008年3月2日

## 本日の話題

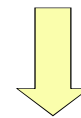
1. 量的研究と質的研究での問題の提起
2. 相互理解のあとの問題について
3. 構造主義科学論による「科学」とは
4. テクスト解釈における基本的な仮定
5. 抽出したカテゴリの妥当性の問題と方法論
6. 一般化の考え方

### 量か質か?



### 認識論上の相違

- ・ 量的研究：客観的実証主義など
- ・ 質的研究：社会構築主義など



相互理解不可能?

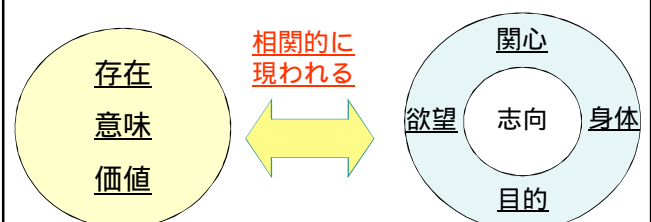
### 構造構成主義による相互理解

- ・ 構造構成主義（西條剛央(2005)構造構成主義とは何か - 次世代人間科学の原理, 北大路書房）
  - ・ 信念対立解消のためのメタ理論

- ・ 構造主義生物学、構造主義科学論
- ・ 後期フッサールの現象学および竹田青嗣現象学：  
超越論的現象学の現代的意義－思考の原理
- ・ ソシュールの一般言語学：  
ラングの社会的構成と個人的構造

### 関心相関性

<存在・意味・価値>は、<身体・欲望・関心・目的>に相関的に現れる。



## 構造主義生物学 / 構造主義科学論

(池田清彦：構造主義科学論の冒険、1990、毎日新聞社；講談社学術文庫、1998)

- ・科学とは変なるものを不変で普遍的な形式とする。
- ・科学は同一性の追求である。



同一性の仮定と言語の恣意性・構造の恣意性・理論の発明など

## 同一性とは？



水はH<sub>2</sub>Oである



ネコは実在するか？

## ソシュールによる一般言語学

頭の内部

ラング

シニフィアン  
(記号表記)

シニフィエ  
(意味)

りんご

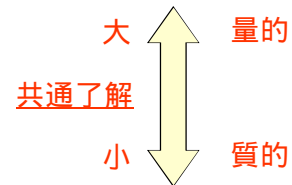


シーニュ(語)

- ・言語は恣意的
- ・言語は差異のみ
- ・言語は否定的
- ・ラングはパロールにより社会的に構成
- ・ラングはパロールの反復により頭脳に構造化

## 多様な科学理論：現象の説明・予測

- ・「もの」と「もの」の関係：数式による  
“ E = M C<sup>2</sup> ”



“瞑想はストレスを緩和する”

- ・「こと」と「こと」の関係：言説による

## 量か質かは研究目的次第

- ・リサーチ・クエスチョンに応じて選択
- ・何を研究するのに依存

研究目的に関心相関的に選択



- ・量か質か：科学的方法論としては同等
- ・科学のエビデンスがあるとは限らない

## 質的研究でのテキスト解釈の問題

- ・量的研究：  
統計学 Evidence Based Approach
- ・質的研究：  
テキスト解釈の問題  
言語の恣意性、テキスト解釈の主観性

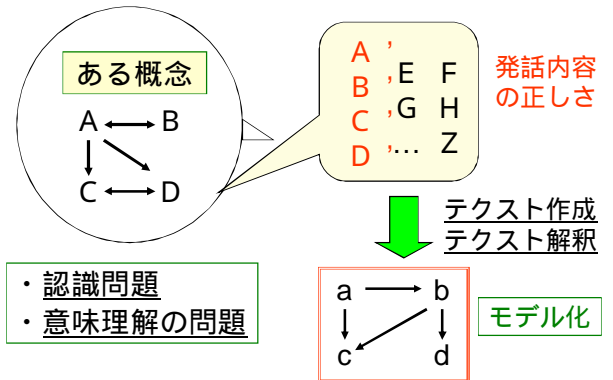
## 共通理解可能な回答が必要

- (0) 構造構成主義による相互理解
- (1) 量的研究と質的研究の本質的相違の理解

### それだけでは不十分

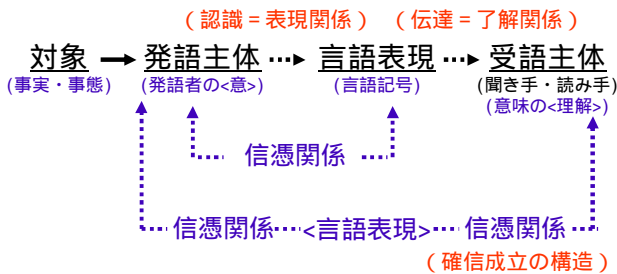
- (2) 質的研究の方法論の積極的な提示
  - ・主観的な解釈とはどのようなことか
  - ・テキストの解釈の正当性の根拠は何か
  - ・共通理解可能なプロセスの開発

## テキスト解釈の妥当性は？



## 言語の信憑構造

(竹田青嗣：言語的思考へ - 脱構築と現象学，径書房，128，2001)



・「確信」もまた総じて到来的な本性をもつのである。(同書，166)

## テキスト解釈の基本仮説

- ・ある現象についての認識構造は両者（情報提供者と研究者）で同一もしくは同型である。
  - ・ラングはパロールにより社会的に構成。
  - ・同一社会内の個人のラングの構造は同一もしくは同型である。
  - ・同一のラングをもつ個人は，ラング以外の内部世界においても，同一構造をもつに違いない（**暗黙の前提**）。
- (池田清彦：構造主義科学論の冒険，93-94，1998，講談社学術文庫)

## 共通理解可能なプロセスの開発

- ・言語の恣意性
- ・研究目的に対応したテキスト解釈



### 解釈プロセスの公共化—マニュアル化

- ・例えば、「グランデッド・セオリー・アプローチGTA」と「M-GTA」で、方法論的にどちがより共通理解できるか？

## GTAとM-GTAの比較一例として

- ・ **GTA** : データの読み込み、データの切片化、コーディング（**プロパティとディメンション**）、理論的比較と理論的サンプリング、**パラダイム**（条件・帰結マトリックス）の使用。
- ・ **M-GTA** : ワークシートの使用（概念，定義，バリエーション，理論的ノート），切片化はなし。概念化のプロセスで【研究する人間】【分析テーマ】【分析焦点者】の視点。
- ・ **共通** : 理論的飽和、領域密着型理論の構築

## エビデンスと一般化可能性

「分析的一般化」と「統計的一般化」

(Yin, R.K.(1994) Case Study Research: Design and Methods, London: Sage)

- ・量的研究：統計的一般化  
母集団での分布，頻度の推定
- ・質的研究：分析的一般化  
理論の一般化と拡張
- ・「継承とアナロジー」（西條，2005）

## 分析的一般化の根拠

- ・ある現象に関する社会における認識構造の同一性の仮定：  
『情報提供者と研究者の認識構造の同一性 / 同型性の仮定』
- ・『一回起性の出来事には，あらかじめ共通な事実が含まれている』  
(池田清彦：構造主義科学論の冒険，31-34，1998，講談社学術文庫)
- ・現象への整合性で一般化の程度を評価